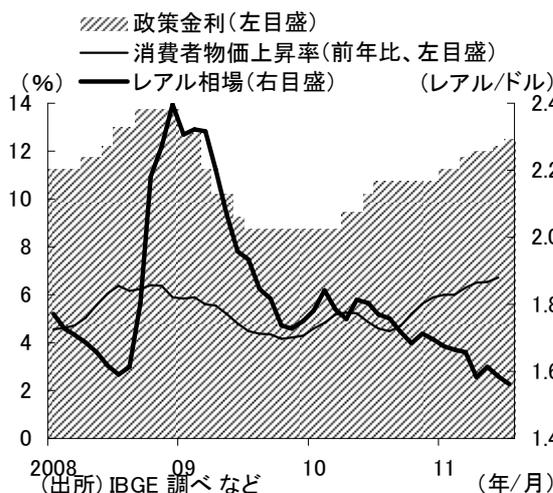


## 好調続くブラジル経済

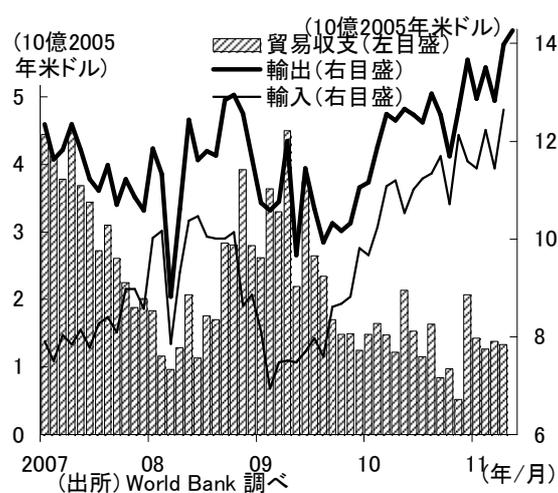
～ 対内直接投資が内需と輸出を牽引 ～

- (1) ブラジル経済は今後成長鈍化の見方が一部に台頭。インフレ圧力の増大を受けて政策金利 (SELIC) は本年6、7月と2ヵ月連続で引き上げられ12.5% (図表1)。2008年11月以来の水準。消費者物価は昨秋来、月を追って騰勢を強め本年6月は前年比6.7%に。05年6月以来の上昇率。企業部門に加え自動車ローンをはじめとする個人消費でも翳りの兆し。一方、外需はリアル高が直撃。対ドル相場は本年7月、1.56リアル/ドルと既往最高値更新。
- (2) 金融引締めの影響は不可避ながら力強さを増す分野も。まず外需 (図表2)。09年入り後の急速なリアル高進行を映じて衣料品を中心に製品輸入が急増。輸出は、09年を通じて一進一退。その結果、貿易収支が急減。しかし10年に入り輸出が増勢に転換。輸入の増勢が次第にペースダウンするなか、貿易収支は減少傾向から10年末以降、増勢へ。
- (3) 輸出品目の変化をみるとリアル高の影響で衣類など非耐久財は減勢 (図表3)。しかし、部品などの半製品、航空機や一般機械などの資本財は本年に入り、再び増加へ。耐久財も底堅い推移。それに対して、これまで資源国として同国輸出を牽引してきた鉄鉱石や石炭など鉱物資源の輸出は一進一退。製品輸出の拡大は所得・雇用環境のさらなる改善に波及。
- (4) 輸出構造転換の原動力は同国経済の豊かな将来性に着目した外国資本の流入 (図表4)。06年以降、対内直接投資が盛り上がり始め、10年半ば以降、一段と加速。対内証券投資もハイペース。少なくとも当面、投資と輸出が牽引する力強い成長軌道からの腰折れ懸念小。

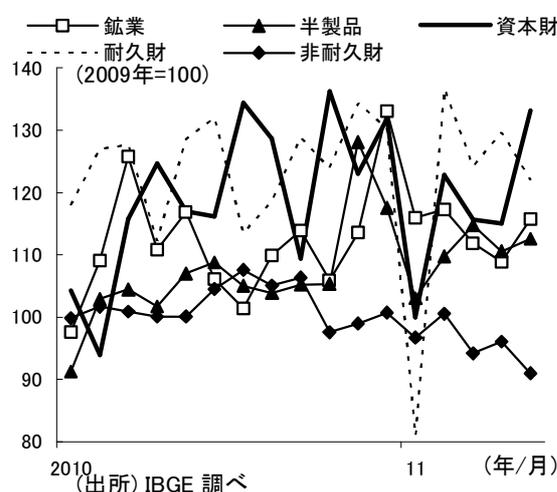
(図表1) ブラジルの政策金利と消費者物価、為替



(図表2) ブラジルの実質輸出



(図表3) ブラジルの財別輸出数量 (季調済)



(図表4) ブラジルの直接投資と証券投資

